

水痘（みずぼうそう）

症状

- ・水痘・帯状疱疹ウイルス感染により、水疱（水ぶくれ）を伴った紅色の発疹が、全身（体のみではなく頭皮や時に口の中にも）に出現する病気です。
- ・皮膚の症状は1週間くらいの経過で、赤い発疹～水疱～かさぶたへと変化します。
- ・経過中は、さまざまの段階の発疹が混在しています。
- ・潜伏期間は10～21日（多くは2週間程度）で、特徴的な皮膚症状のため、診断は容易です。
- ・神経節に潜伏感染したウイルスが将来再活性化すると、帯状疱疹を発症します。

治療

- ・発疹出現後早期（なるべく24時間以内）に、抗ウイルス薬（アシクロビル、バラシクロビル）を飲み始めると、症状持続期間を若干短くすることができます。
- ・発疹のかゆみと化膿予防のために、軟膏（フェノール・亜鉛華リニメント）を使用します。
- ・重症化の危険性が高い子ども（免疫を抑える薬を使用している場合など）は、水ぼうそう患者との接触後72時間以内にワクチンを接種、96時間以内に水痘に対する力価の高い免疫グロブリン製剤を使用、あるいは接触1週間後からアシクロビルを7日間内服するなどによって、発症予防や軽症化対策を取ります（詳しくは主治医に相談してください）。

家庭で注意すること

- ・かゆみを伴うため、かきこわさないように爪は短くしておくことを勧めます。赤ちゃんであれば手袋をするのもよいでしょう。
- ・全身の具合が悪くなれば、シャワーで皮膚を清潔にすると、かゆみの軽減や化膿予防につながります。
- ・口内炎ができるときには、水分を中心に刺激の少ない、柔らかな食べ物を少しづつ与えてください。

登園・登校のめやす

- ・全ての発疹がかさぶたになるまでは出席停止となります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・高い熱が3-4日間続くとき。ぼんやりして元気がないとき。発疹が化膿したとき（赤く腫れて痛がるとき）。

救急車を呼ぶめやす

- ・けいれんや意識状態の低下（呼びかけに対する反応が不良）を認めたとき。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
<http://www.niigata-er.org>